

令和2年度

事業報告書



社会福祉法人土佐厚生会



# — 目 次 —

土佐厚生会 .....	2
障害者支援施設こくふ .....	5
障害者支援施設あき .....	7
障害者支援施設とさ .....	9
特別養護老人ホーム八流荘 .....	14
ホームヘルプステーションやながれ .....	16
小規模多機能型居宅介護事業所南風 .....	18
在宅介護支援センターやながれ .....	21
就労継続支援B型事業所ウィール社 .....	23
就労継続支援B型事業所カトレア .....	26
就労継続支援B型ワークセンターファースト .....	29
障害者福祉ホームコーポラスこくふ .....	32
相談支援センターアルペジオ .....	34

# 社会福祉法人土佐厚生会

## 1 事業の総括

- (1) 社会福祉法人制度について、税制上の優遇措置にふさわしい地域貢献や運営の透明化等が義務付けられていることから、ガバナンス強化、透明性を高めた積極的な情報公開を進めるなど、効果的かつ公益的な組織運営に努めた。
- (2) 地域から信頼を得るため地域の課題に挑戦し、サービスと組織全体の改善を行うなど地域関係者との信頼の積み上げに努めた。
- (3) 利用者様の立場に立った良質かつ適切な福祉サービスを提供するため、利用者様の安全と労働災害の防止、労働生産性の向上など、役職員の活動方向と判断基準の一体化に努めた。
- (4) 管理者は、必要な知識と技術の習得など、継続的な学びは勿論のこと、常に改善を進めていく土壌を築き専門性とリーダーシップを発揮しながら自身の人間力向上に努めた。

## 2 事業報告

### (1) 施設機能の強化に取り組む

#### ア 指導管理の推進

- (ア) 毎月開催される施設長勉強会で、会是、経営理念、事業計画の作成について、学習をした。特に福祉理念、経営理念に沿った支援を心掛け事業を展開することの確認をした。当初計画した勉強会の時間設定の変更、或いは事業計画の実践方法の学習に長時間を割いたこともあり、会是マニュアル並びに接遇マニュアル作成、施設長による会是説明会開催には至らず、次年度に持ち越しとなった。
- (イ) 事業計画の作成について、令和3年1月から担当業務執行理事、法人本部が中心となり、事業計画の作成についての説明会の開催、事業計画書作成指示と提出に向けた事前相談会を開催、翌2月には各施設、事業所の長や計画作成に携わった職員に対する聞き取りを行い、修正後再提出とした。令和2年度は、事業計画書作成後に短期間での中期計画、短期計画書の作成であったため、令和3年度は昨年度の中期計画、短期計画を見直し、緊急に取り組む必要のある項目と取り組める項目数を整理し事業計画書を作成した。
- (ウ) 各施設の状況を把握し指導、監督するための資料として事業計画、人事考課結果の提出、職員満足度及び帰属意識調査提出については計画書どおり、サービス評価については今年度評価項目を変更して実施した。ただし、各部署・委員会年間計画書の提出については、様式等具体的に示せていないため次年持越しとなった。虐待事例、事故事例等各種データの提出については、報告書の様式を決定、法人本部で取り纏め理事会、評議員会で報告し今後も継続していくこととした。
- (エ) 業務執行理事の使命と役割について外部講師を招聘し、理事会での勉強会を計画したが、コロナ禍の関係で実現できなかった。また、業務執行理事がそれぞれ財務管理、組織管理、人事管理、サービス管理と担当を決め、法人の事業計画を進めることとしたが、具体的策の準備ができていないこともあり、リスクマネジメントに関する指導強化、接遇関係の調査等が次年度持越しとなった。業務執行理事会は毎月開催したが、情報交換、施設の問題課題の検討などに終始し、外部に向けた法人としての課題の抽出、協議をするには至らなかった。
- (オ) 施設長の育成強化のため、毎月1回施設長の勉強会を開催し、①施設長の使命と役割、②職員育成研修講師の育成、③事業計画書について、④福祉理念・経営理念・会是の徹底、⑤人事考課による主任の育成、⑥個別支援、生活支援計画書に基づく

支援、⑦虐待、事故防止委員会の活動の促進、について月ごとの計画を立て取り組んだ。①③④について講義、デスクッション等を重点的に実施したため、②⑤⑥⑦については次年度持越しとなった。

(2) 利用者サービスの向上に取り組む

ア 職員の育成強化

(ア) 研修体制の構築について、本年度の職員研修は土佐厚生会の研修計画に沿って進めた。研修委員会組織体制、研修委員の役割分担、OJTの取り組みなどについては、具体的な計画が立てられていないため次年度持越しとなった。

(イ) リーダー育成の強化に向けて法人内でワークショップ型学習会を30歳以上の職員を対象に10回、等級別に4回、外部講師を招聘し開催した。

イ 良質のサービスの推進

(ア) 虐待や事故防止に対する意識の徹底をするため、職員研修会で各委員会活動の実態調査をし、委員会活動の指導をする予定であったが、職員研修の時間が取れず実施には至らなかった。

(イ) 接遇マニュアルの作成に至らず、施設長勉強会の机上のみの研修となった。

(3) 職員の確保

ア 人材マネジメントシステムの構築

(ア) コロナ禍のため、従来の採用活動が実施できず、データの収集、分析もできなかった。募集方法、多様な働き方、勤務形態等の工夫など現在の仕組みについても今後の検討課題として次年度に持ち越す。

イ 職員満足度の向上・帰属意識の醸成

(ア) 職員満足度・帰属意識調査に向けてアンケート様式を作成、各施設、事業所に配布しアンケートを実施した。その集計結果は各施設、事業所長に配付し次年度の事業計画書に反映させることとした。

(イ) キャリアパスの徹底については、施設長、所長のキャリアパスについての認識が統一されているか、また各施設の職員がキャリアパスについて、どのように認識しているか不明であり今年度の取り組みには至らなかった。

(4) 本部事業

ア (仮称)障害者支援施設ステージ桜が丘・小規模多機能型居宅介護事業所南風新築工事は、令和2年3月30日着工し令和3年3月10日完成、同年3月22日建物の引き渡しを受けた。

日付	項目	備考
令和2年4月3日	建築確認済書取得	
令和2年4月9日	起工式	
令和2年4月21日	(株)日比野設計支払い	14,688,000
令和2年10月23日	(株)岸上工務店支払い	361,680,000
令和2年12月10日	高知県による中間検査	
令和3年3月10日	工事完了	
令和3年3月10日	(株)日比野設計支払い	7,344,000
令和3年3月16日	法人完了検査実施	
令和3年3月22日	建物受け渡し	
令和3年3月22日	高知県、安芸市による完成検査実施	

イ 法人創設40周年記念事業の実施

法人40周年記念式典については、障害者支援施設ステージ桜が丘・小規模多機能型

居宅介護事業所南風新築落成記念式典と併せて執り行う予定であったが、コロナの終息が不透明であり落成記念式典等開催についても危ぶまれるなか、40周年記念事業は見送ることとした。

ウ 施設整備事業の実施

- (ア) 八流荘建て替え用地について、赤野地域では新たな土地取得が不可能であるとの判断から、安芸市内の土地探しを不動産業者等に依頼した。その後いくつか物件の紹介はあったが、敷地面積の不足、譲渡交渉が難航等の理由からいずれも取得には至らなかった。現段階では、障害者支援施設あきの移転後、当該建物を解体しその跡地を利用し八流荘の建設が可能か検討する。
- (イ) 新設八流荘の施設形態について、本会の希望は従来型の4人部屋とユニット型の併設を希望したが、高知県の方針としては2人部屋が限度であることから今後さらに検討していくこととする。

## 障害者支援施設こくふ

### 1 事業の総括

2020年度はコロナ感染対策に緊張感と拘束感を担いながらも、利用者様への支援力の低下はなく急変時の迅速な病院搬送や家族支援、連絡や理解にと費やした一年間だったように思います。事業につきましては、重複項目があることや小項目を具体的にできないモノもあり、それらのリーダーシップを図れず未実施に至るなど反省点が多く残りました。

### 2 事業報告

事業計画(1) 利用者の確保に努め、施設経営の安定を図ります。

ア 新たに施設が見える広報ツール(パンフレットやチラシ等)を作成し、積極的な営業活動を行い利用者確保に努めます。(80名定員・稼働率93%)

イ 短期入所の稼働率を向上させるため、障害児、緊急ショートや体験ショートの受け入れを積極的に行います。

ウ 日中活動プログラムを充実します。(短期入所者に日中活動への参加を呼びかけます)

ア パンフレット未完成、訪問による広報活動を計画的に進めることができませんでした。施設入所稼働率74%、生活介護稼働率73.4%で2020年度を終了となりました。

イ コロナ感染対策による施設閉鎖を行いました。開放後には通常のショートのみで緊急ショート依頼はありませんでした。

ウ 職員体制が想定通りにいかず、予定の日中活動プログラムを増やすことができず日中支援の充実を図ることができませんでした。

事業計画(2) 明るく働きやすい職場環境づくりをすることで支援力を高め、職員の確保を行います。

ア 提供する支援に意味を見出し、利用者支援に臨みます。

イ 職員間では有効的なコミュニケーションを図り、チームアプローチで支援を行っていきます。先輩職員は、後輩職員への指導方法を考え指導力を高めていきます。

ウ 自施設に必要なモノ、自分が得るべきモノを各職員が自覚し、創造力を結集してチームワークを向上していきます。

エ 職員が母校に出向き活動報告等を行うことで後輩を勧誘、また、就職フェアや転職イベント等に積極的に参加し職員確保に努めます。

具体的な取り組み方法や計画を示さなかったために結果を出すに至りませんでした。ふくし就職フェアはいずれもリモート面接となり、専門学校1校から4名のブース訪問、社会人は0名、職員確保には至りませんでした。1校の進路担当教員が来所いただき、今後の関わりとしてインターンの検討となりました。

事業計画(3) 利用者満足、職員満足の向上に努めます。

ア 積極的に業務改善を図り、各委員会活動では利用者様の特性やニーズから適切な支援を検討する等、施設におけるノーマライゼーションの実現を考えます。

イ 時代や社会、季節に応じた楽しみや体験の機会を提供することで利用者様は満足を得られ、職員は支援の楽しみや達成感が得られる機会をつくります。

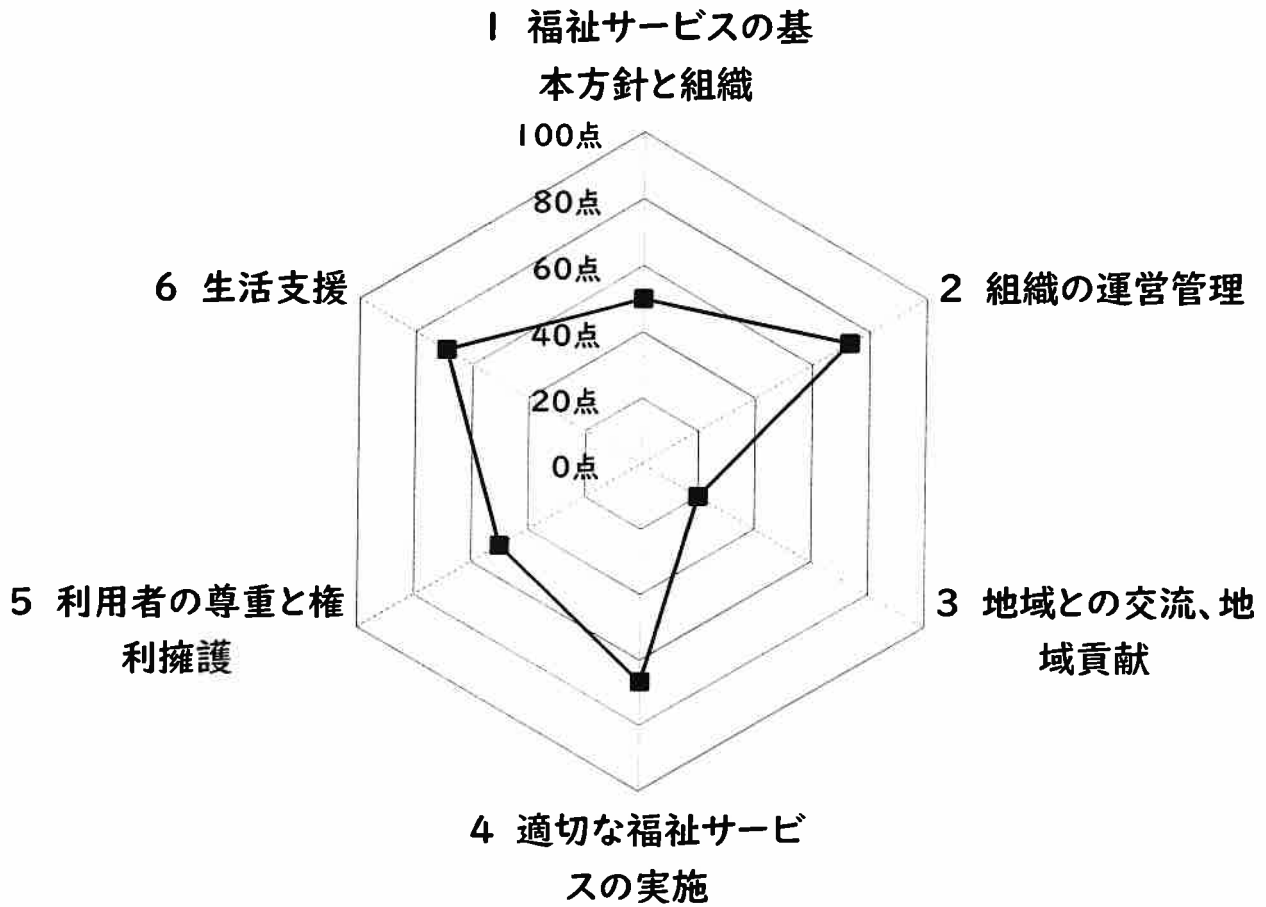
ウ 地域住民やボランティアの交流、地域貢献を行うなど地域に開かれた施設づくりを行います。

ア 業務改善や委員会活動に差はありましたが、職員間の協働意識は向上しています。

イ 制限がある中でのミニ祭りや散歩コーヒータイトムや花見コーヒータイトム等の提供をしました。

ウ 2020年度はしゃこう連への参加に変更しましたが、活動がありませんでした。

# 評価細目の自己評価結果 (障害者支援施設こくふ)





## 障害者支援施設あき

### 1 事業の総括

「ゆるぎない施設づくり、ゆるぎない関係づくり」をスローガンとして、持続可能な経営と組織体制づくり、強いつながりの構築に努めて参りました。収益としては夜勤加算取得により若干増加しましたが、稼働率が低迷し目標金額には及びませんでした。移転工事の進行に伴い、多くの人との関りができてくる一方で、施設内外における情報の伝達や共有が十分できなかったこともありました。またコロナ禍の中で、スタッフの研修や家族面会へのオンライン活用、移転に向けてのペーパーレス化、感染防止対策等、新たな生活様式が徐々に進んだ1年でした。

### 2 事業報告

事業計画(1) 施設の継続：人材確保に努めながら、利用希望者の見極めと、きめ細かな追跡を行い、収益 3000 万円プラスを目指します。

ア 利用者在籍数 50 名、稼働率 95%以上を目指します。

イ 人員配置加算取得 (1.7 : 1) の継続、夜勤加算取得 (2 人夜勤から 3 人夜勤への体制変更) を目指します。

ウ 認定調査時に正確、詳細な情報を提供し、適正な障害支援区分を受けられるようにします。

ア 年間を通して、退所者 6 名、入所者 5 名、平均稼働率生活介護 85.5%、施設入所支援 83.6%、人件費率 67.79%で目標には到達できませんでした。

イ 人員配置加算は引き続き取得でき、6 月から夜勤加算も取得できるようになりました。

ウ アセスメントシート、記録の重要性の周知と理解の促進に努め、サービス提供状況の確認、指導を行いました。平均障害区分は 4.8 から 5.0 へ上がりました。

事業計画(2) 施設の成長：組織の運営管理について改善を図ります。

ア コンプライアンスを強化し、帰属意識の醸成と任務の理解に努めます。

イ リスク管理を強化し、情報の共有、理解、実践のための具体的な体制を作ります。

ウ 業務マニュアル、手順書の作成、見直しを行い、福祉人材の育成に活用します。

エ ノーリフティングケアを推進し、安全な職場環境づくりに努めます。

ア 職員会、部署長会、朝礼での説明や、冊子配布、掲示等を行い、サービス自己評価が c 評価から b 評価に上がりました。

イ 過去の事故、インシデントを啓発目的として振り返るシステムを作りました。担当部署がピックアップした過去事案の概要とその対策を月 2 回の朝礼とパソコンで申し送り、風化させないように努めました。

ウ リスク管理の観点から、優先度、重要度の高い介護場面である、食事、入浴、移乗についてのマニュアルを作成しましたが、スタッフ全体への周知までには至りませんでした。

エ 高知家ノーリフティングケアマイスター養成講座 3 名受講、記述研修 4 名受講。腰痛予防対策推進チームを立ち上げました。アンケートを実施し、課題解決に取り組みました。

事業計画(3) ステージ桜が丘へ：引越しに向けて、全スタッフが役割を持ち、万全の体制を整えます。

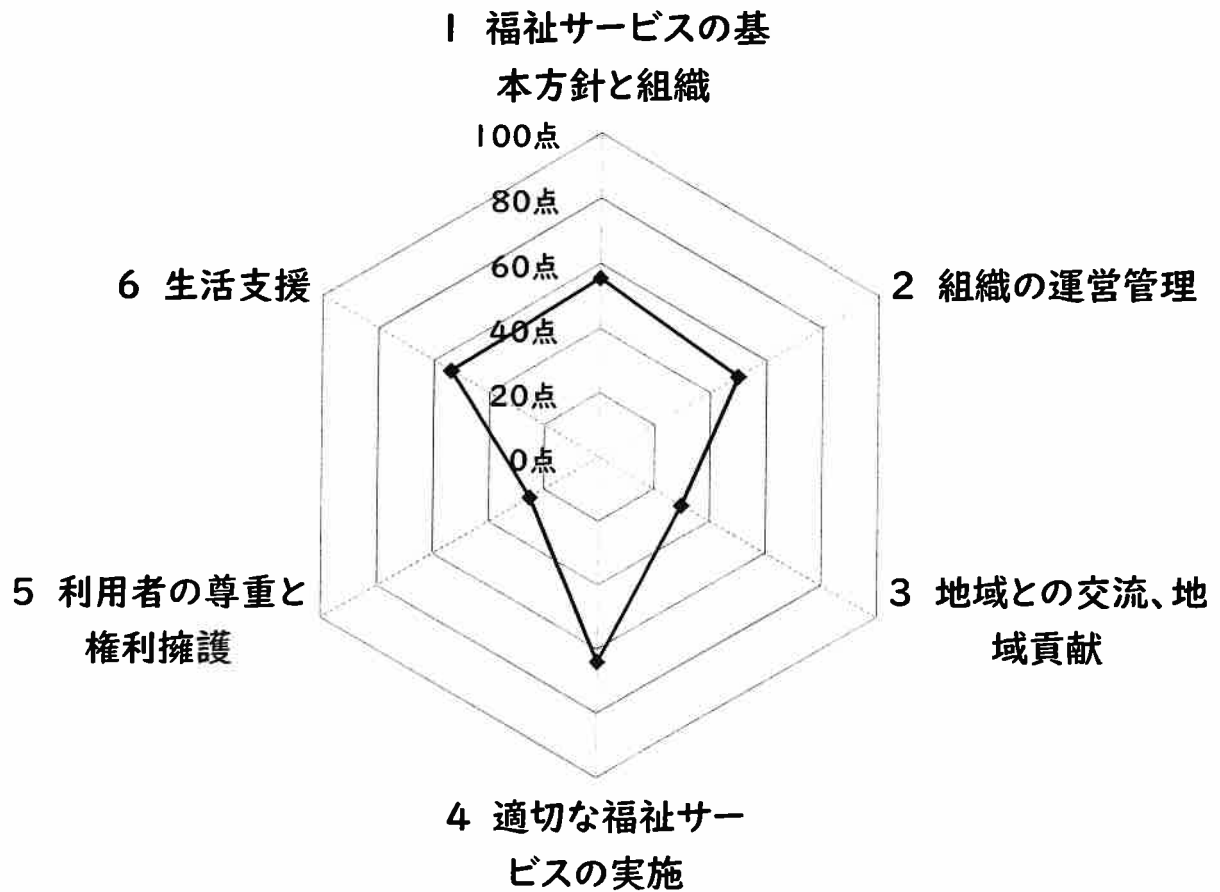
ア 密にコミュニケーションをとり、新施設について認識の統一を図りながら準備を行っていきます。

イ 利用者様ご家族、地域、関係機関への伝達、周知、各種変更手続きを行います。

ア 新施設のコンセプト、ルール化、業務の見直し等について職員会やミーティング等にて検討、すり合わせの機会を持ちましたが、建物ができて実際に見るまではわからないとの意見が多く、具体的内容はほとんど決定しませんでした。利用者様の荷物の片づけは 3 月に入り、急速に進みました。南風との打ち合わせは 2 月と 3 月に行いました。

イ 10 月と 3 月に、ご家族には新施設について紹介の文書を送付しました。各種変更手続き等は特に問題ありませんでした。

## 評価細目の自己評価結果 (障害者支援施設あき)



## 障害者支援施設とさ

### 1 事業の総括

関係法令を遵守し、会是を基本理念として、利用者様の人権の尊重と自己決定・自己選択及び自立に向けた支援に努め、利用者様が安心・安全な生活ができる支援を行いました。また、「次世代を担うスタッフの育成」をスローガンとしてスタッフの育成に努めました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、事業に多大な影響を受けました。特に利用者様の社会参加が制限され、地域との交流もできませんでした。

### 2 事業報告

事業計画(1) 人財確保のため、次世代を担うスタッフの育成や求人対象の整備を行い、スタッフ定着率95%を目指します。

- ア 次世代を担うスタッフの育成により、組織人としての自覚を促します。
- イ 外国人技能実習生の受け入れ環境の整備等により、人員不足を補います。
- ウ 宿泊室の整備等により、実習生を増やし採用につなげます。

スタッフ定着率は92.7%と目標値を下回りました。福祉人材を増やすため、未経験者も積極的に嘱託職員として採用した事が主な原因です。正規職員の定着率は100%でした。

- ア 次世代を担うスタッフとして、サービス管理責任者候補1名、リーダー支援員5名をOJTにて育成しました。2月に嘱託正看護師1名採用、正看護師を確保しました。
- イ 外国人技能実習生の受け入れは、コロナ禍のため活動できませんでした。
- ウ 実習生宿泊室の整備は、北棟二階和室を実習生が宿泊できるように改造し、必要な備品も整えました。コロナ禍による宿泊実習中止のため利用はありませんでした。

事業計画(2) サービスの質の向上のため、安心安全な生活環境の提供に努め、施設入所支援サービス稼働率98%、生活介護サービス稼働率93%（入所96%・通所80%）、短期入所サービス稼働率90%を目指します。

- ア ノーリフトの浸透等により、統一した支援の提供に努めます。
- イ 体調不良の早期発見等により、安心な生活の提供に努めます。
- ウ 施設内事例検討の実施により、適切な支援の提供に努めます。

稼働率は、施設入所支援96.4%、生活介護92.6%（入所95.5%・通所77.8%）、短期入所87.3%と全サービスにおいて目標値を下回りました。コロナ禍による利用控えと利用調整が難しかった事が主な原因です。

- ア ノーリフトの浸透や移乗・姿勢保持等の統一した支援を図り、移乗や姿勢保持に関する苦情は0件でしたが、コロナ禍もあり支援員の身体的負担軽減には至りませんでした。
- イ 安心な生活の提供を目指し、誤嚥性肺炎による入院は3件でした。体調不良の早期発見と早期対応を行い、利用者様・家族様・行政からの苦情はありませんでした。
- ウ 事例検討会は、コロナ対応のため事例検討会は未実施、一部署の事例用意に留まりました。選択食聴き取りのIT化は、タブレット端末にて省力化を行い、選択食に関する苦情はありませんでした。

事業計画(3) 事業継続のため、新規利用者様の受け入れや費用対効果とリスク対策を意識した設備機器や備品の整備を行い、事業活動資金収支差額10%を目指します。

- ア 新規利用者様の受け入れ等により、安定した収入の確保を図ります。
- イ 補助制度の活用、保守・耐用年数を踏まえた設備の購入等、コスト意識を高めます。
- ウ 災害対策の充実により、災害時の負担の軽減を図ります。

事業活動資金収支差額の収入比率は13.3%となり目標を上回りました。

- ア コロナ禍の影響により新規利用者様の獲得は、通所4名・入所2名・短期入所1名でした。通所生活介護の年間稼働率は77.8%と目標を達成できませんでした。

- イ 費用対効果の向上は、コロナ禍もあり大規模工事は行わず、職員更衣室に空調設置、施設内に安心カメラを整備しました。コロナ対策・天井走行リフター整備・陰圧装置設置・スマートフォン購入に対して補助制度を活用しました。蛍光灯 35 本の LED 交換等を行い、光熱水費は前年度比 7.5%削減できました。
- ウ 防災の充実は、備蓄食の保管場所は確保しましたが 5 日分の確保に至りませんでした。コロナ禍のため十分な検討ができなかった事が原因です。防災訓練は、コロナ禍のため普段より縮小した訓練となりました。

### 3 その他事業報告

#### (1) 月別稼働率の状況

##### ア 稼働率 (単位: %)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
施設入所	95.1	95.8	95.5	95.9	97.8	98.0	98.0	98.0	95.5	96.0	95.5	95.7	96.4	
生活介護	89.4	91.1	91.7	92.4	92.0	92.6	93.6	94.2	93.6	93.8	92.6	93.6	92.6	
内	入所	(94.4)	(94.9)	(94.3)	(95.0)	(96.8)	(97.2)	(96.8)	(96.8)	(95.3)	(95.7)	(94.3)	(94.5)	(95.5)
	通所	(64.5)	(72.2)	(79.1)	(79.6)	(68.3)	(69.5)	(77.8)	(80.9)	(84.8)	(84.3)	(84.0)	(88.7)	(77.8)
短期入所	73.3	86.3	87.5	79.8	87.9	65.8	76.6	87.5	112.1	85.5	108.9	97.6	87.3	

#### (2) 年間行事等

##### ア 施設の行事

##### (ア) 日中活動

種目	目標	実施内容
室内 娯楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知能力や感受性の向上</li> <li>協調性を養う</li> <li>心身のリラックス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卓球バレー・風船バレー・かるた</li> <li>オセロ・トランプ・ボッチャ・玉入れ</li> <li>DVD鑑賞・もぐらたたき・輪投げ</li> <li>ボーリング・ビーンバッグ・スカットボール</li> </ul>
作業 療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>手指の細かい動作能力を高める</li> <li>心身の耐久性を高める</li> <li>協調性、思考性、感受性を養う</li> <li>意思・意欲の向上</li> <li>認知能力を高める</li> <li>自立生活能力を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理材料買物</li> <li>調理(ラッシー、豆乳蒸パン、野菜クレープ)</li> <li>七夕飾り付け・クリスマス飾り</li> <li>正月飾り・ひな飾り・個人創作</li> </ul>
学習系	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団(社会)適応能力を高める</li> <li>手指の細かい動作能力を高める</li> <li>認知能力を高める</li> <li>協調性を養う</li> <li>思考性を養う</li> <li>感受性を向上させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>暑中見舞い・年賀状</li> <li>書道・ぬり絵・カード合わせ</li> <li>新聞作り・折り紙・間違い探し</li> <li>なぞり書き・かるた</li> <li>個別学習・声の広報・地域学習</li> <li>質問カード・書初め・英語</li> </ul>
音楽 療法系	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキンシップやリラックス</li> <li>仲間作りや雰囲気づくり</li> <li>発声訓練や身体の体操</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム音楽・カラオケ・音楽鑑賞</li> </ul>
園芸 療法系	<ul style="list-style-type: none"> <li>手・指の操作性</li> <li>身体の動き</li> <li>観賞、食する喜び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作物(人参、苺、ゴーヤ、じゃがいも)</li> <li>栽培(チューリップ、朝顔、ひまわり)</li> <li>作物や畑の手入れ・新聞作り</li> <li>押し花・収穫物の調理</li> </ul>

外出	・気分転換 ・社会参加	・買物・ドライブ・花見・カフェレスト
生産活動	・社会参加 ・協調性や自活能力を高める ・意思や意欲の向上	・手作りパン販売
機関紙	・思考力を養う	・打ち合わせ、紙面づくり、送付準備な
美活	・清潔保持・心身のリラックス ・意思・意欲の向上・気分転換	・スキンケア・ハンドケア・ネイルケア ・ヘアメイク・オーラルケア
美食	・気分転換、意思や意欲の向上	・話し合い・スイーツ等取り寄せ・会食

(イ) 年間行事

行事名	実施日	実施場所(※備考)
花見弁当	4/2	とさホール
ふれあい交流会	中止	※コロナ禍のため
彼岸の法要	9/20	楓の間 ※職員のみ
涼風祭	中止	※コロナ禍のため
ミニ新年会	1/16	とさホール
節分豆まき	2/3	とさホール
彼岸の法要	3/19	楓の間

(ウ) 生活利便のサービス

	内 容	対象
預金引出	火曜日に行員が来所、希望者様の通帳処理を行いました。	入所
買物	水曜日に希望日用品を代行して購入しました。	入所
パンの販売	月2回程度、業者が来所してパンを販売しました。	入所・通所
移動スーパー	水曜日に移動スーパーが来所、利用者様が選択して生活物品を購入されました。	入所・通所

イ 地域住民等との交流

例年は、波介小学校との交流会や入学式・運動会・卒業式への参加、高石小学校との交流会、土佐市から始まる MusicStep さん主催のコンサート等に参加しておりましたが、コロナ禍のため、すべて参加中止となりました。

(3) 防災訓練及び避難訓練等の実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導			6/24					11/11					2回
消火			6/26					11/11					2回
通報	4/1		6/24		8/3		10/1	11/11	12/14		2/1		7回
地震	4/1		6/24		8/3	9/1	10/1	11/11	12/14		2/1		8回
図上			6/24					11/11					2回
夜間避難			6/24						12/14				2回
救急法								11/27					0回
水害対応									12/14				1回
不審者対応													0回

※コロナ禍のため、三密に該当する救急法と不審者対応の訓練は中止。

## (4) 施設への苦情等件数

受付先	施設内の問題	その他の問題	計
とさの苦情等の申出窓口	0	0	0
とさ地区施設運営委員会	0	0	0

## (5) スタッフの配置状況 (令和3年3月31日現在)

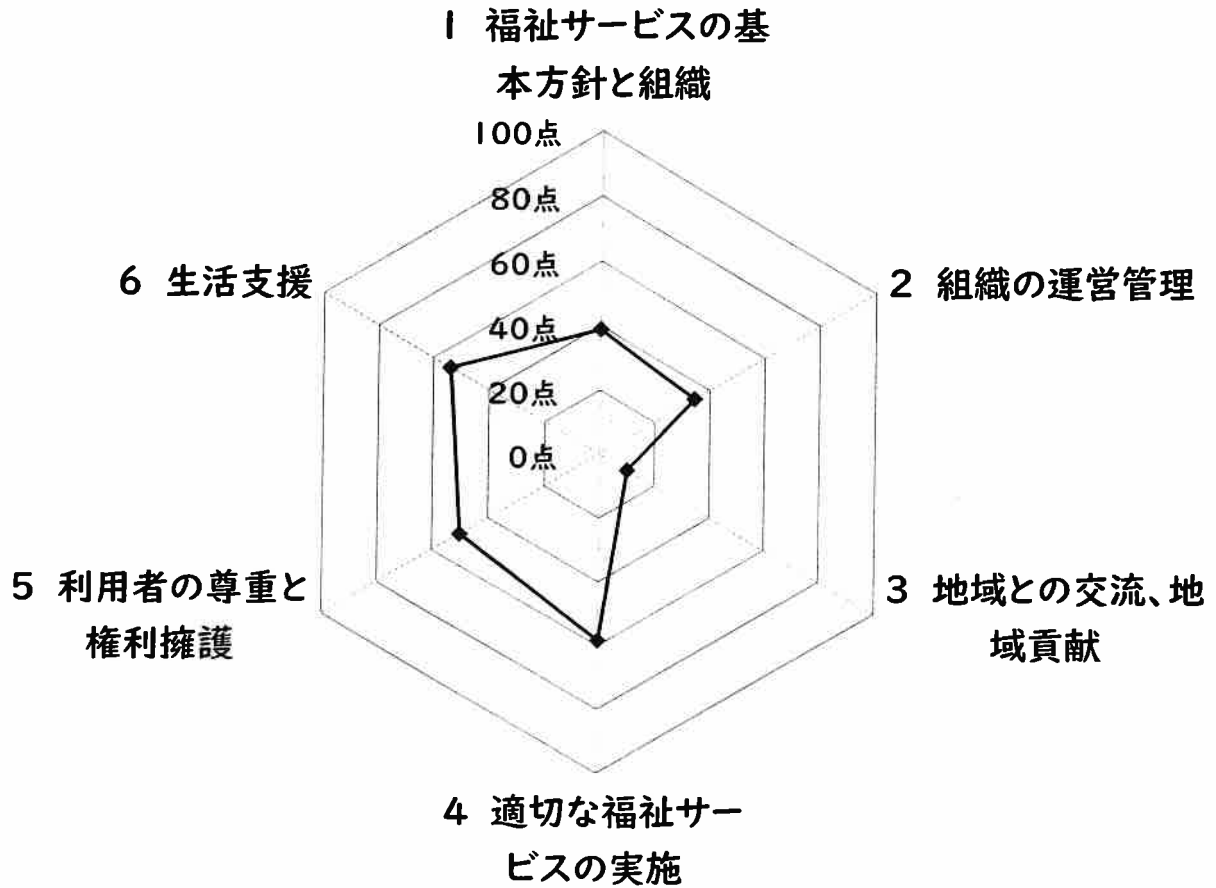
職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)	職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)
施設長 (管理者)	1	1	0	理学療法士	1	1	0
サービス管理責任者	1	1	0	管理栄養士	1	1	0
医師 (嘱託医)	0	0	1	事務員	2	2	0
看護職員	4	4	0	用務員	1.2	1	1
生活支援員 (介護)	33.4	27	9	夜間警備員	1	1	0
生活支援員 (相談)	2	2	0	合計	47.6	41	11

## (6) スタッフの外部研修への参加状況

研修・セミナーの名称	開催期間	場所	参加者
福祉サービス苦情解決セミナー	9/23	高知市	施設長
成年後見人研修	11/11	土佐市	施設長
実習指導者研修	11/26~11/27・12/9~12/10	高知市	生活支援員 (介護)
食と栄養の会 研修	3/5	高知市	管理栄養士

※コロナ禍のため、参加予定していた研修のほとんどが中止。

# 評価細目の自己評価結果 (障害者支援施設とさ)



## 特別養護老人ホーム八流荘

### 1 事業の総括

長期的に安定した運営・経営に必要な「取り組むべき課題」を明確にするため、現状把握を中心とした活動を行いました。令和2年度に計画していた活動の多くは「人財不足」を要因として、取り組み不十分に終わっている状況がありました。しかし、絶対的な人財不足を要因とする事柄と、考え方や手法等により解決できる事柄を切り離して考え、それぞれに取り組む必要があることが把握でき、次のステップに進む準備期間として有意義な一年となりました。

### 2 事業報告

#### 事業計画(1) 利用者への姿勢

- ア 安全で良質なサービスを継続的かつ安定的に提供
- イ 利用者様の権利を尊重した支援の展開

- ア 各種委員会への参加や職員からのヒアリング等により、委員会の現状把握に努めました。必要な委員会は計画的に開催しているものの、限られた人員・時間の中での運営となっており、「連続性と整合性が不十分」(参加者のばらつき)・「十分な議論ができない」(開催時間が短い)・「効果的・効率的なケアにむすびついていない」(各委員会の連携不足)という課題が確認できました。次年度はこの課題の解決に向けて委員会の運営方法・編成などを検討・実践をします。
- イ 身体拘束廃止・虐待防止を施設内に浸透させるためには、委員会がしっかりと意識を持った活動が必要となるため、身体拘束の弊害や種類、やむを得ず実施する場合の三原則・虐待の五分類などについて、委員会開催のたびに確認をしました。また、具体的な言葉遣いを明示できるように八流荘禁言集の作成にも取り組みましたが、完成には至らず次年度への活動持ち越しとなりました。

#### 事業計画(2) スタッフへの姿勢

- ア 福祉人財の育成強化
- イ 働きがいのある職場づくり
- ウ スタッフの確保

- ア 八流荘スローガンである「克己力を以て調和を図り。傾聴力を以て支援にあたる」を毎朝、朝礼にて唱和をし、時には具体例を交えながらその意味を伝えました。
- イ 主としてノーリフティングケアの実践・定着の活動をしました。高知県の補助金を利用してリクライニングや跳ね上げ式の車いすを新たに13台導入し、先進的な介護技術の実践に取り組みました。利用者様の心身状態の安定や擦過傷の軽減、職員の心身の負担軽減など、目に見える効果も実感でき、仕事に対する意欲向上につながっています。その中一部で「福祉機器を使えばノーリフティングケア」という意識が先行している状況が確認できたので、委員を中心に「基本・理念」の再周知を行いました。
- ウ 職種や雇用形態に関わらず、意見交換が可能となるよう職員会を実施し、抜かりのない情報共有の実践に取り組みました。また、外部の関係機関と積極的に連携を図り、新たな人財確保ルート作りに取り組みました。

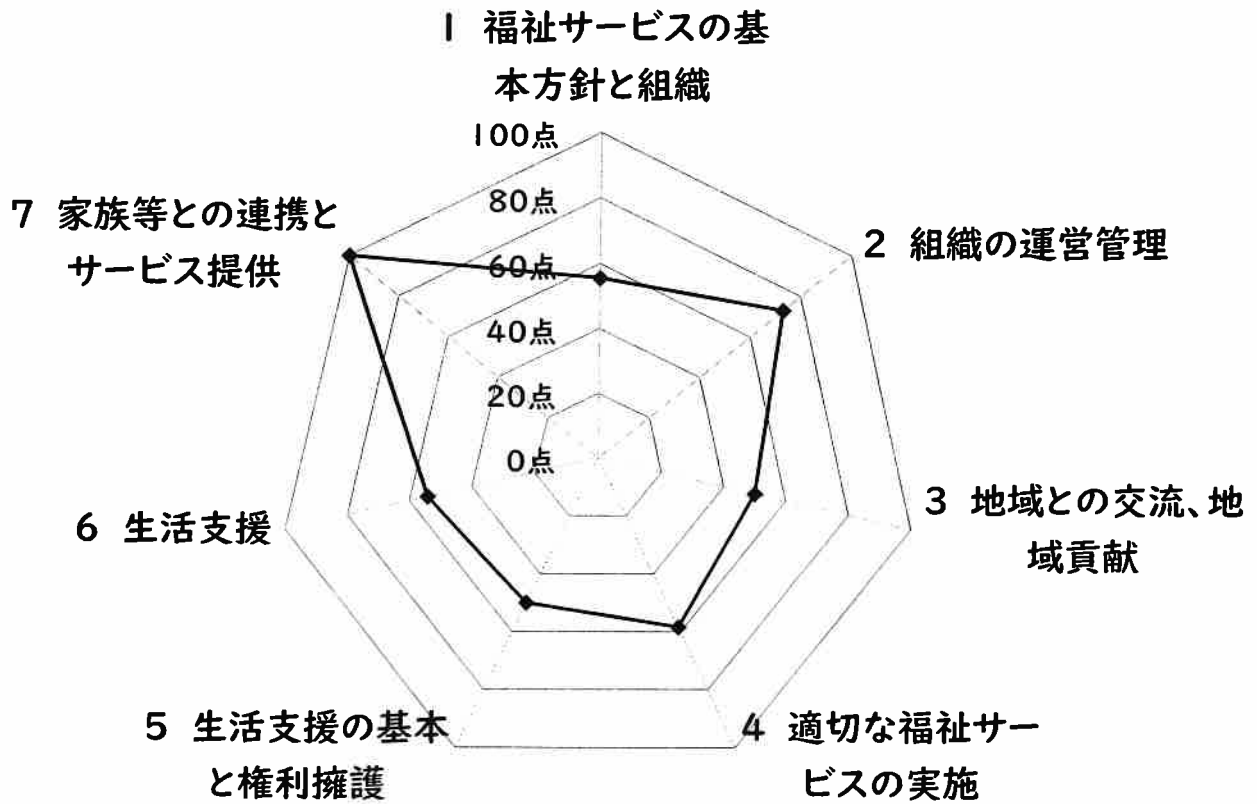
#### 事業計画(2) 組織への姿勢

- ア サービス及び組織の改善を継続
- イ 新たな課題への挑戦

- ア 介護現場のICT化に向けた活動を法人と連携して実践しました。スムーズな導入に向けて職員に対しての説明やアンケートなどによる下地作りを行いました。次年度中の介護記録支援ソフトとタブレット端末の導入に向けて活動を行う予定です。
- イ 人員不足を大きな要因として、十分な取り組みが出来ませんでした。



# 評価細目の自己評価結果 (特別養護老人ホーム八流荘)



## ホームヘルプステーションやながれ

### 1 事業の総括

2025年には団塊の世代の方達が75歳以上となり、超高齢者社会となることが見込まれています。高齢者は要介護状態にならないよう、また、介護状態になっても悪化を防ぐための努力、介護保険事業所には高齢者が自立して社会生活を送ることができるようになるための支援が求められています。訪問介護事業所「ヘルプステーションやながれ」もそのニーズに沿って改革が必要です。

令和2年度は管理者の交代、デイサービスの休止もあり、それを機に2名のサービス提供責任者を配置しました。また、特定事業所加算取得のための体制づくり、登録ヘルパー確保のための賃金体系見直し等をおこない在宅サービスを提供する事業所として地域社会から求められる事業所となるための組織づくりに取り組みました。

### 2 事業報告

事業計画(1) 経営基盤の安定を図り、職員の満足度を高める職場づくりを行ないます。

ア 平均稼働率90%/月、利用者延べ人数385名/月を目指します。

イ 登録ヘルパー1名の雇用に向け努力し、働きやすい環境の構築に努めます。

ア 6月よりサービス提供責任者を2名体制にしたため平均稼働率は53.6%となりました。

イ 登録ヘルパーの募集に当たり登録ヘルパーの賃金、諸経費の支給額などの見直しをおこないました。

年間を通じ3名の紹介がありましたが2名は雇用に至らず、1名は3月に雇用予定でしたが体調不良で治療が必要となり、保留となっています。

事業計画(2) 利用者の意向を尊重し、その人らしく安全で安心して生き生きと自立生活が送れるように支援します。

ア 積極的に傾聴、共感的態度で接することにより信頼関係の構築に努めます。

イ カンファレンスを通じて業務上の問題課題に対する取り組みを行います。

ウ できることは利用者ができるように支援し、また、一緒に行うことで自立心の向上を図ります。

ア 土佐厚生会「News letter」の「接遇講座」を回覧、職員間で再確認し合いましたが利用者宅での単独での支援のため現場での態度を細かくチェックすることはできませんでした。

イ サービス実施記録の様式を事業所内での情報交換ができるように変更し、必要な情報や記入の仕方について話し合い、次第に記入内容が増えてきています。

ウ 意向を尊重し、自立した生活の支援をするということについての理解と実践が不十分でした。今後も引き続き検討課題として取り組んでいきます。

事業計画(3) 業務スキルの向上と安心感のあるサービスの提供に努めます。

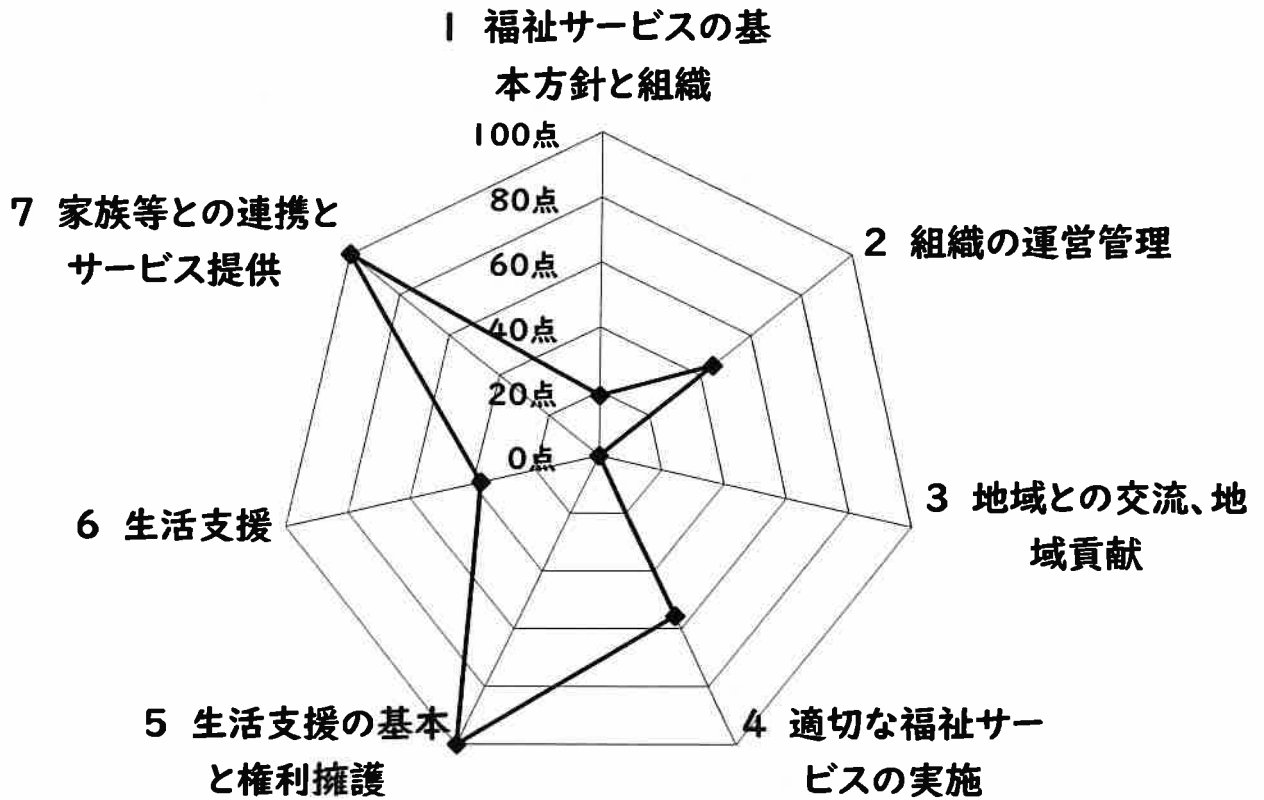
ア 年間研修計画に基づく各種研修を実施します。

イ サービス提供責任者を中心に業務マニュアルの見直しと業務の標準化の実施に向けて検討します。

ア 年間計画の作成と見直しを行い、それに沿った研修会は実施しましたが職員会と合わせでの実施のため時間が短く、各職員が深く意見交換をするまでには至りませんでした。

イ 新規利用者の支援内容についてのマニュアルは作成しましたが継続利用者のマニュアルの見直しまでには至りませんでした。

# 評価細目の自己評価結果 (ホームヘルプステーションやながれ)



## 小規模多機能型居宅介護事業所南風

### 1 事業の総括

「その人がその人らしく笑顔で過ごせる安心した居場所づくり」を目標に、介護が必要になっても、家族や親しい方との繋がりを大切にしながら、住み慣れた地域でできるだけ長く、安心、安全な生活ができるように努めました。

事業所の安芸市西浜への新築移転につきましては、法人はもとより、関係機関の多大な協力をいただき、スタッフ一同、建物の完成を心待ちにし、移転に伴う準備を進めてまいりました。

令和3年1月22日安芸市実地指導にて、不適切なケア（身体拘束）による虐待の認定にいたり、改善計画書を提出いたしました。令和3年度につきましては、改善計画におけるそれぞれの具体策を実施し改善いたします。

### 2 事業報告

事業計画(1) 地域との連携と地域にある資源を把握し、利用者様のこれまでの生活スタイルを維持、継続できるように努めます。

ア 地域にある資源を把握し活用することで、利用者様の生活スタイルを維持、継続できるよう支援します。

イ 利用者様の住む地域の民生委員との関わりが持て、地域と事業所双方で利用者様を支える体制を整えます。

ウ 高知ケアラインの活用にて、関係機関と情報共有します。

ア 地域にある資源の把握と、資源を活用することで、利用者様のこれまでの生活スタイルを維持、継続できるよう支援しました。

イ コロナ禍の為民生委員の地区会出席を自粛しましたが、利用者様の住む地域の民生委員からの情報提供もあり、地域と事業所双方で利用者様を支える体制作りをしました。

ウ 高知ケアラインにて主治医との情報共有（病状、処方薬の追加、変更、次回予約時間等）ができると共に、サービス提供の追加や変更がスムーズにできるようになりました。

事業計画(2) スタッフ皆でお互いを高めあっていくことができる職場環境を目指します。

ア スタッフ皆でコミュニケーションを円滑に取り、チームケアの向上を図ります。

イ 目標を定め共有できるよう、チームリーダーを中心に組みます。

ウ 職員面接（人事考課面接、身上調書面接、適宜）によりエンゲージメント向上を目指します。

ア 入・退職者はありませんでした。コミュニケーションがとりやすい職場環境になるよう努めました。

イ 利用者支援や年間の行事等チームリーダーを中心に組みました。

ウ 人事考課面接（2回/年）と、身上調書面接（1回/年）を行い、スタッフの思い（困りごとや職場における将来像）、体調等の確認する等でエンゲージメント向上を図りました。

事業計画(3) アセスメント、個別プランの視点をスタッフ間で共有し、安心、安全な生活の提供をします。

ア 勉強会（定期）、カンファレンス（適宜）実施します。

イ 利用者様の目標（ゴール）、当面の目標（～したい）を明確にしたケアプランの作成、サービスの提供をします。

ア 認知症実践者研修を受講したスタッフの課題ケースについてスタッフ全員で取り組み、アセスメント、個別プランの視点をスタッフ間で共有しました。

イ 行政主催のケアマネ研修受講、ケアプラン作成、サービス提供に反映しました。

事業計画(4) 登録定員 23 名を目標（稼働率 92%）とし、経営の安定化を図ります。

ア 病院、包括、居宅介護支援事業所等への広報活動（南風新聞発行、関係機関訪問）を計画的に行います。

イ 取得可能な加算報酬の算定ができるように、職員体制を整えます。

ウ 通所、訪問、泊まりの柔軟な受け入れを提案し、サービス利用強化を図ります。

エ 業務改善提案を推進します（スタッフ全員が 1 件/月以上）。

令和 2 年度目標値：登録定員 23 名（稼働率 92%）に対し、稼働実績：登録定員 22.8 人（稼働率 91.3%）目標達成はできませんでした。

ア 南風新聞を活用し、関係機関（安芸市周辺）への広報活動を行いました。

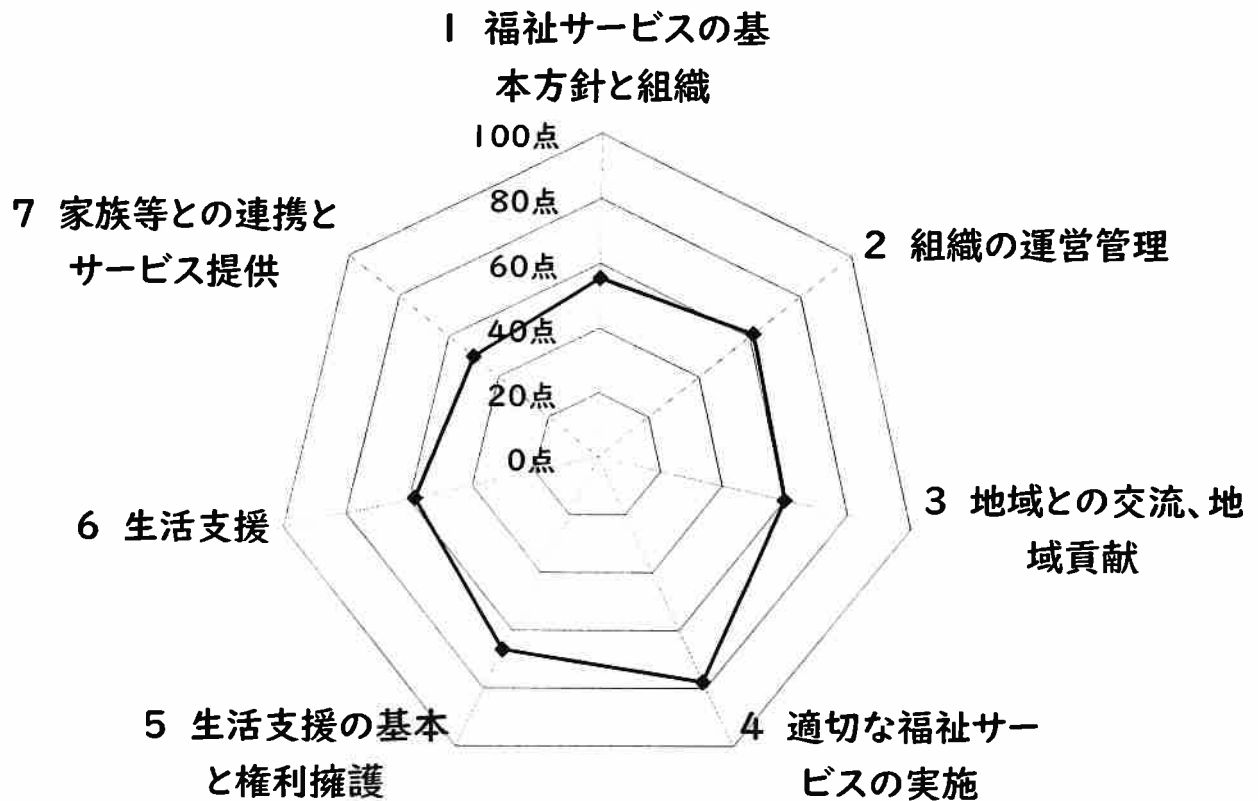
コロナ禍であり、高知市内の病院等への訪問は自粛しましたが、電話での営業を行いました。利用には繋がっていませんが、利用の相談等、電話での問い合わせがありました。

イ 新たな加算取得はありませんでした。

ウ 通所、訪問、泊まりの柔軟な受け入れを提案し、利用を継続できたケースがありました。

エ 目標値には届きませんでしたが、職員への業務改善についての意識づけや体制作りができました。

# 評価細目の自己評価結果 (小規模多機能型居宅介護事業所南風)



## 在宅介護支援センターやながれ

### 1 事業の総括

事業の提供地域である芸西村、安芸市では高齢者が増加しているにも関わらず在宅で生活を  
する高齢者は減少しています。それに伴い本年度は利用者数の増加は期待できないことを予測し、  
介護支援専門員1名で業務を実施しました。

今後は、要介護認定者が増加していくことに備えて介護支援専門員の新たな雇用も必要となる  
ことが予測されます。実務につく介護支援専門員の少ない現状の中、近隣地域や介護支援専門員  
連絡協議会等の情報を収集して雇用に備えていきます。

### 2 事業報告

事業計画(1) 介護保険制度や社会資源を活用して、高齢者が地域で生きがいを持ちながら、  
自分らしい生活を継続していけるよう支援を行います。

ア 公民館活動や地域行事等への参加により地域の高齢者ニーズを把握し、その解決に向  
けて適切な社会資源を提供していきます。

イ 介護保険制度の狭間にいる高齢者を地域と協力して支えていきます。

ア 新型コロナの関係で公民館での百歳体操や地域行事が一時期、中止となり参加する事が  
できませんでした。3月に公民館を訪問しましたがコロナ感染対策もあり、参加者が激  
減しているとの話もあり、次年度も地域の高齢者の社会参加への働きかけに取り組ん  
でいきます。

イ 地域包括や医療機関からの新規利用者の紹介があった時には積極的に受け入れる体制  
を整えました。

事業計画(2) 地域住民や医療、行政、その他関係機関と連携して高齢者の生活を支援して  
いきます。

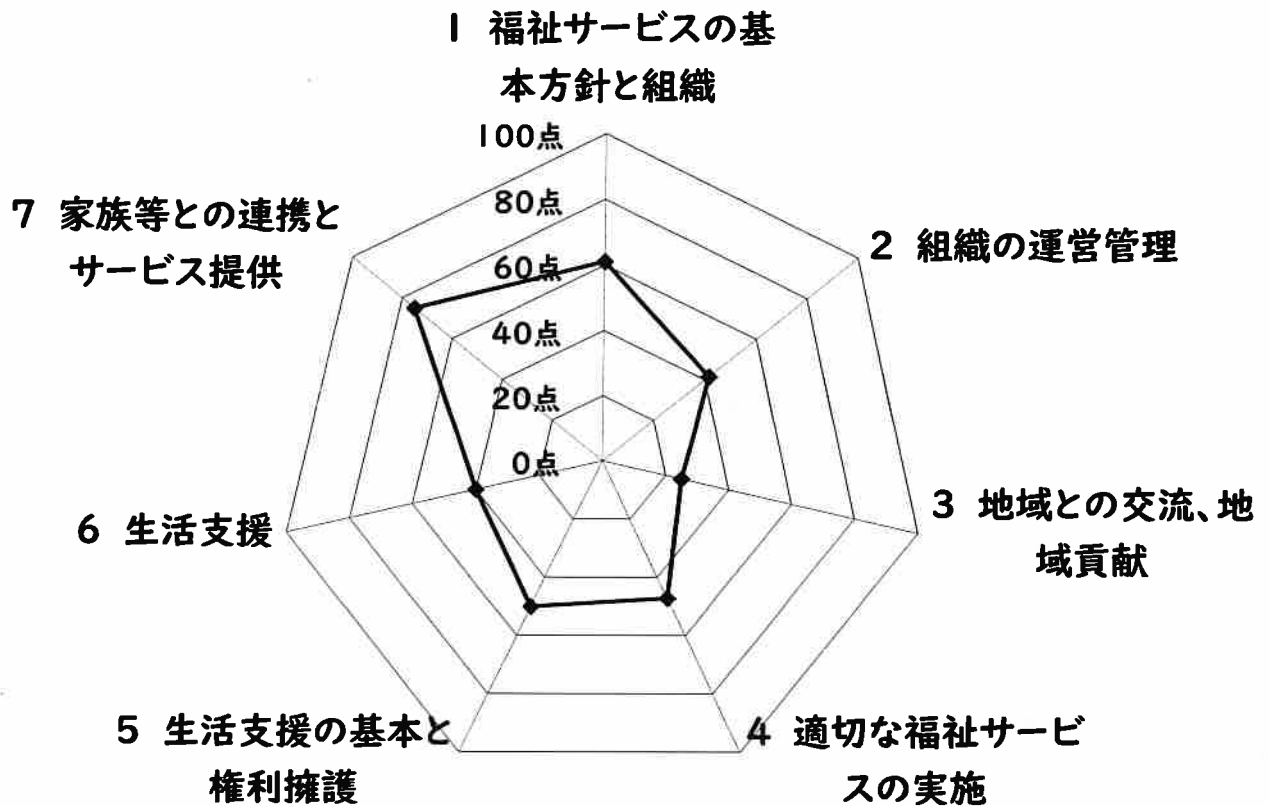
ア 福祉、法令関係他の各分野の研修会に参加し、介護支援専門員としてのマネジメント  
のスキルアップを図っていきます。

イ 重度化した高齢者や医療依存度の高い高齢者の急増を見据え、高齢者が地域で暮らし  
続けるための医療介護の一本化したサービスが提供できるよう高知家@ライン等のI  
T機器の活用により、関係機関の連携を進めていきます。

ア 高知県介護支援専門員連絡協議会の理事としての活動や研修はすべてリモート開催と  
なりましたが参加し、介護支援専門員の社会的地位と資質の向上に努めるとともに、介  
護保険制度の動向など情報収集を行いました。また、主任介護支援専門員更新研修を受  
講してケアマネジメントのスキルアップを図りました。

イ 介護と医療の連携強化の為、ICTの活用で関係機関との連携を進めました。

# 評価細目の自己評価結果 (支援センターやながれ)





## 就労継続支援B型事業所ウィール社

### 1 事業の総括

土佐厚生会の会是「愛情」「奉仕」「連帯」を遵守し、利用者様の働く場と日中の居場所の提供を目標に、利用者様に寄り添った支援、経営の安定化、工賃向上を図りました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業計画通りに推移できませんでしたが、令和2年度は3名の新たな仲間を加え、大きなトラブルもなく、1年間を過ごすことができました。

また、社会福祉法人清水基金様からの助成金で10人乗りの送迎車両を購入、社会福祉法人共同募金会様からの助成金にて屋根の修繕を実施することができました。

### 2 事業報告

事業計画(1) 利用者様に寄り添った支援を提供します。

- ア 利用者様のニーズや課題、目標、支援方法等を全スタッフが理解し、個別支援計画に沿った支援を実施します。
- イ 利用者様の自治会や家庭生活での役割等を把握し、役割遂行のためのアドバイスや支援を行います。
- ウ 利用者満足度を高めるために、積極的に研修参加、資格取得に努め、スタッフの資質向上を図ります。

- ア 個別支援計画は、計画的に実施され、職員会等で全スタッフに周知し、適切に支援を行いました。
- イ モニタリング時や面会時に家庭での役割や自治会運営の相談を受け、その都度アドバイスを送りました。
- ウ 法人の階層別研修や、5S活動、テレワーク研修、発達障害セミナー等の外部研修に参加し、スキルアップを図りました。また、1名がサービス管理責任者基礎研修を受講しました。

事業計画(2) 利用者様の確保をすすめ、経営の安定化を図ります。

- ア 利用契約者25名、1日平均23名の通所を確保し、稼働率115%を目標とします。
- イ 特別支援学校の体験実習を積極的に受け入れ、学校との連携を深め、新規利用者確保につなげていきます。
- ア 新規利用者様の確保につきましては、4月、1月、3月にそれぞれ1名確保し26名となりましたが、稼働率は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入所施設からの通所が停止となり、年間稼働率は110%でした。
- イ 特別支援学校の実習生は2名の受入れを行い、現在は2名とも通所されています。

事業計画(3) 就労支援事業の売上目標を24,840,000円とし、収益率の向上を図り、利用者様の工賃向上に努めます。目標工賃は23000円とします。

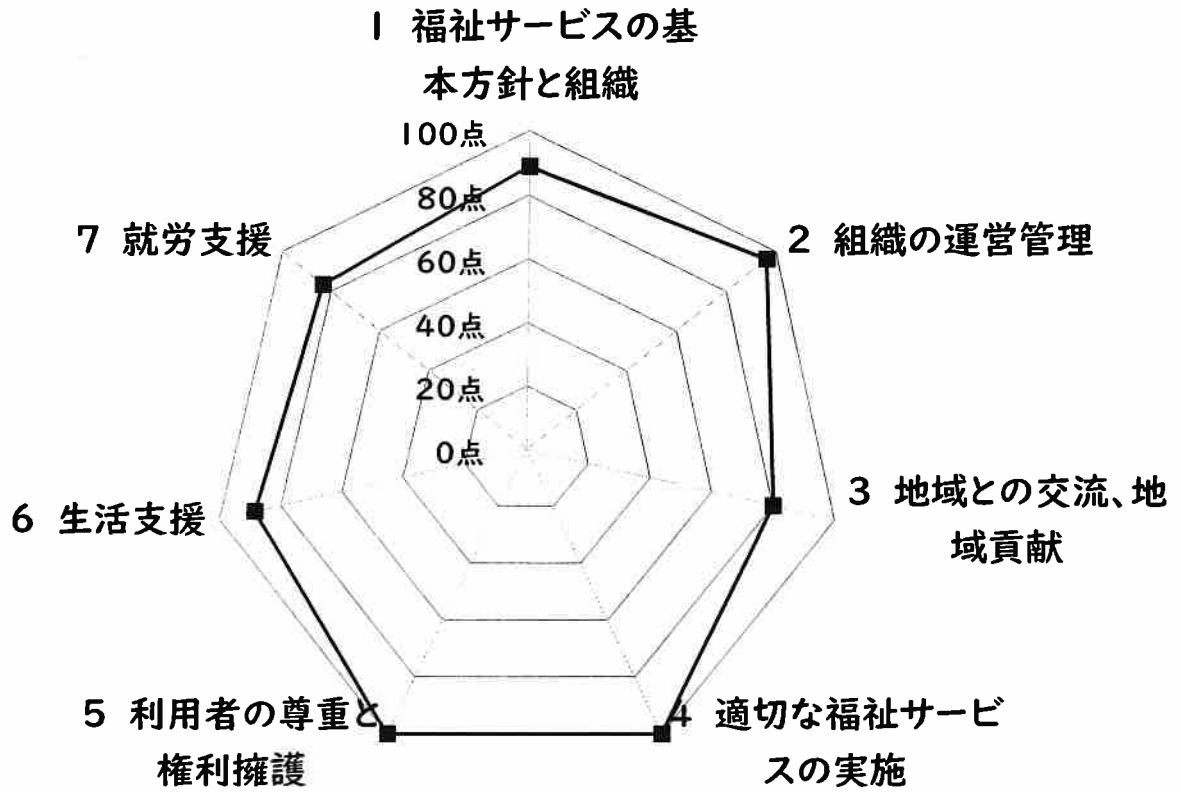
- ア 印刷部門の売上目標は、16,440,000円とし、ミスやムラを無くし、利益率向上に努めます。
- イ 精米部門の売上目標は、6,000,000円とし、各取引先との関係に努めます。
- ウ 軽作業部門の売上目標は、2,400,000円とし、利用者様の働きやすい環境やマニュアルの整備を行い、目標達成に向けチャレンジします。
- エ ファーストやカトレアとの連携を深め、販売協力や作業分担等を実施し、収益率向上を図ります。
- オ 工賃や賞与の体系を見直し、工賃目標を23,000円とします。

各作業の実績は以下のとおりとなっています。

作業名		令和元年度	令和2年度	予算（目標）
ア	印刷部門	15,585,280	15,024,038	16,440,000
イ	精米部門	5,964,460	5,655,197	6,000,000
ウ	受託作業			
	ミニパック	288,190	229,975	250,000
	浜幸	291,563	115,705	300,000
	いりこ	591,757	521,878	600,000
	南国ミロク	338,782	439,543	600,000
	ティッシュ	143,713	111,166	150,000
	その他	659,625	585,598	500,000
	受託作業合計	2,313,630	2,003,865	2,400,000
	その他	48,000	733,800	0
	合計	23,914,370	23,416,900	24,840,000
	平均工賃	¥23,948	¥23,615	¥23,000

- ア 印刷部門は、上半期にイベントチラシのキャンセルや名刺の受注量が激減し、苦戦していましたが、下半期に盛り返すことができ、対前年度比-3.6%となりました。
- イ 精米部門は、仕入れ商品の見直しを図ることで利益率は少し改善できる予定でしたが、農家からの仕入れ量が例年より少なく、大きな改善とはなりませんでした。
- ウ 受託作業は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、お菓子の包装作業やポケットティッシュの袋詰め、いりこの分割作業等が減少し、対前年度比-13.4%となりました。
- エ イベントの中止で、各施設の自社製品の販売協力は行うことができませんでした。
- オ 年間の売上が不透明で、工賃体系の見直しは実施しませんでした。利用者様の冬期賞与は上半期の落ち込みを挽回できておらず、利用者様に説明し、理解いただけましたので1か月の支給に減額させていただきました。

# 評価細目の自己評価結果 (ウィール社)



## 就労継続支援B型事業所カトレア

### 1 事業の総括

ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者様が地域社会の一員として自立生活を送るための生活面の支援と、就労に必要な知識および技能を高める就労支援をしました。会是の「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、『次世代を担う職員の育成』をスローガンとして、土佐厚生会の経営理念を念頭に置き、事業計画を達成できるよう職員間で共有を図り、全職員が一丸となって取り組み成果を出せるように努めました。

### 2 事業報告

事業計画(1) 利用者様の地域社会での自立生活の確立ができるように支援を行います。

ア 利用者様ひとり一人の人権を尊重して、自己決定、自己選択を保障し、社会生活支援と就労支援を個別支援計画に基づき行います。

イ 土佐厚生会のスタッフとしての資質向上と育成に努めます。

ア 利用者様のニーズに応えられるよう個別支援計画を立案し、エンパワメントの視点で支援できる取組みを進めました。支援のサイクルとして、観察、(記録)集約、分析、目標設定、手だて(5W2H)実践、評価で行い、定期的にモニタリングを行い確認しました。

イ 土佐厚生会の経営理念についての勉強会にスタッフ全員が参加し、職員会にて会是についての勉強会も開催しました。コロナの影響でOFF-JTの研修は減少しましたが、スタッフの職種や経験年数に応じた研修に参加しました。

事業計画(2) 就労会計の赤字額を減少させるべく年間売上¥27,000,000、利用者様工賃は前年度を上回る¥19,000/月を目指すことを目標とします。

ア 食品加工

新規販売先の開拓に努め、売上目標¥4,400,000を目指します。

イ 乾燥工場

(株)サニーフーズとの安定した取引を行い、売上目標¥18,600,000を目指します。

ウ 喫茶

一日平均売上定食数20食を目指し、売上目標¥2,600,000を目指します。

エ 清掃・空調

障害者支援施設とさの清掃作業業務と空調清掃を請負、売上目標¥1,400,000を目指します。

就労会計の年間売上額は、¥24,523,071となり、目標売上額は達成することができなかったが、職員一丸となり、原価の見直しと経費削減に取り組み、就労会計を黒字化とすることができました。カトレアとして、初めて就労会計の積立金を計上することができ、成果を上げることができました。就労会計の実績は以下のとおりです。

	作業部門	作業内容	令和元年度売上	令和2年度売上	目標
ア	食品加工	粉末商品、いりこ請負	4,205,780	4,512,427	4,400,000
イ	乾燥工場	乾燥生姜・野菜チップ 乾燥加工費	19,898,152	15,873,402	18,600,000
ウ	喫茶	喫茶、イベント	2,760,402	2,717,242	2,600,000
エ	空調・清掃	とさ空調清掃、清掃業務	800,000	1,420,000	1,400,000
	合計金額		27,664,334	24,523,071	27,000,000
	平均工賃		18,736	20,154	19,000

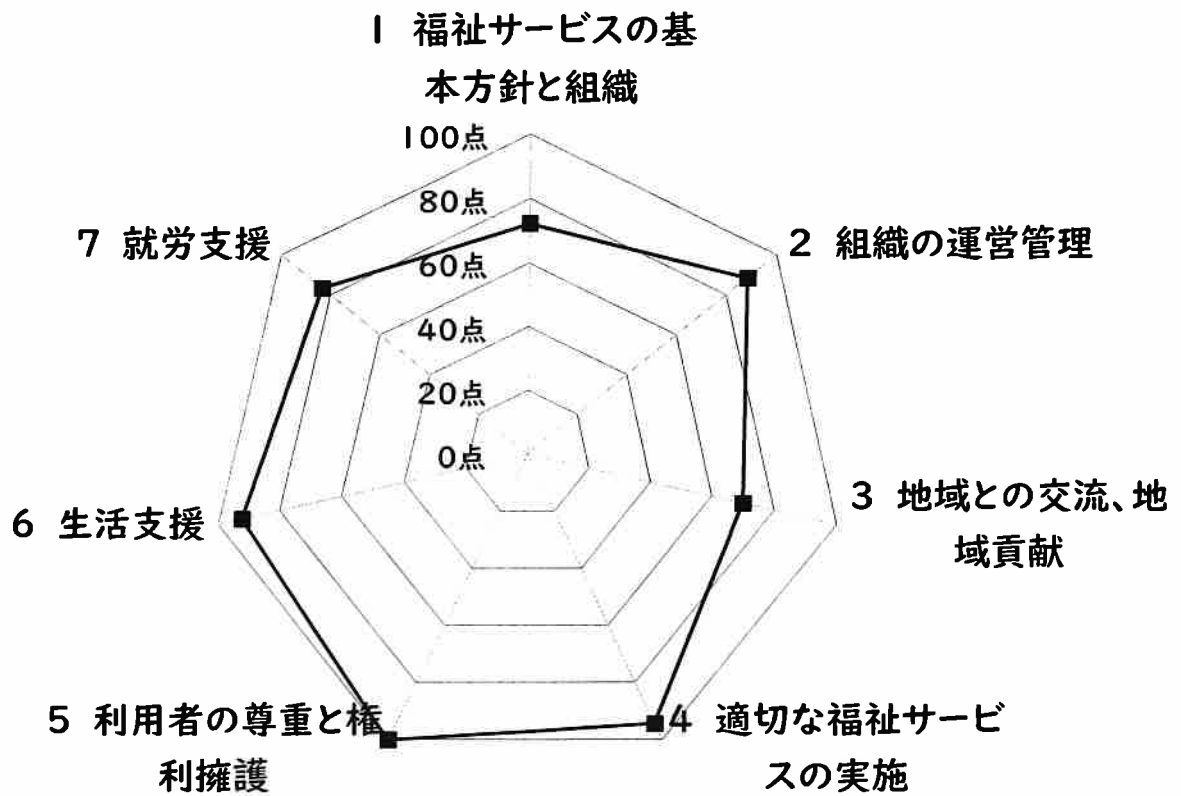
事業計画(3) 事業活動収入の安定を図る為、目標稼働率 110%とします。

ア 特別支援学校の現場実習を積極的に受入れ、学校との連携を深めます。

利用契約者は 26 名（定員 20 名）確保することができておりますが、コロナの影響を受け、4 月 5 月の緊急事態宣言下、夏季の第 2 波、冬季の第 3 波の利用自粛が響き、平均稼働率は 108.1%でした。

ア 日高特別支援学校高等部 2 年生の現場実習を受入れ、3 年生でも現場実習を活用して下さると報告を受けております。

# 評価細目の自己評価結果 (カトレア)



## 就労継続支援B型ワークセンターファースト

### 1 事業の総括

利用者様が嶺北地域において、自立した生活を可能にするための生活支援と社会生活や社会参加を実現する社会適応訓練、就労訓練を実施いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、多くの制限がある中、利用者様、スタッフ一丸となり生産活動や社会生活を営むことができました。

### 2 事業報告

事業計画(1) 利用者様に寄り添った支援を提供します。

- ア 利用者様一人ひとりのニーズや思い、生活環境を把握し、利用者様に寄り添った個別支援計画を立案、実践していきます。
  - イ 地域行事への参加や地域との交流の機会を増やし、利用者様の社会参加を推進します。
  - ウ 法人内外の研修に積極的に参加し、スタッフのスキルアップを図ります。
  - エ 防災対策に積極的に取り組み、利用者様の安全確保に努めます。
- ア 利用者様のニーズや思いを個別面談にて確認し、それぞれの作業や生活環境にあった個別支援計画を立案し、職員会にて周知徹底し、実践いたしました。
- イ 地域の行事やイベントは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大豊町町民文化祭やあったかハートふれあい大会等開催されませんでした。感染症の落ち着いた間にスピリットアート展の見学や花見に行くことができました。
- ウ 計画していた研修すべてを受講することはできませんでしたが、法人階層別研修や発達障害セミナー、成年後見制度セミナーを受講し、スタッフのスキルアップを図りました。
- エ 火災、地震、水害訓練を計画的に実行し、利用者様の防災に対する意識付けを行いました。また、利用者様用の防災頭巾も購入しました。

事業計画(2) 利用者様の確保をすすめ、経営の安定化を図ります。

- ア 利用契約者 12 名、稼働率 80% を目標とし、利用者の新規獲得と出勤率の向上を図ります。
  - イ 嶺北地区 3 事業所との連携を深め、共同で作業やイベントを実施し、地域の活性化を図ります。
- ア 7月に1名の利用者様を確保し利用契約者は11名となりましたが、12名の目標には届きませんでした。しかし、出勤率が向上したため、年間稼働率は85.1%でした。
- イ 例年実施しています土佐町町営プールや町営住宅の庭の清掃は実施できませんでしたが、秋以降、芋ほりやショッピングセンター駐車場の清掃を行いました。

事業計画(3) 就労支援事業の売上目標を2,000,000円とし、収益率向上と顧客の増加に努め、工賃の向上を目指します。

- ア 受託作業部門では、年間1,300,000円の売上を目標とし、利用者様の工賃向上を図ります。
- イ 嶺北地区の印刷受注窓口として、積極的に営業活動を行い、収益の向上を図ります。売上目標は、700,000円とします。
- ウ ウィール社やカトレアと連携し、販売協力や作業分担等を行い、収益率向上を図ります。
- エ 利用者様の作業能力や作業内容に応じて工賃体系の見直しを図り、平均工賃目標を10,500円とします。

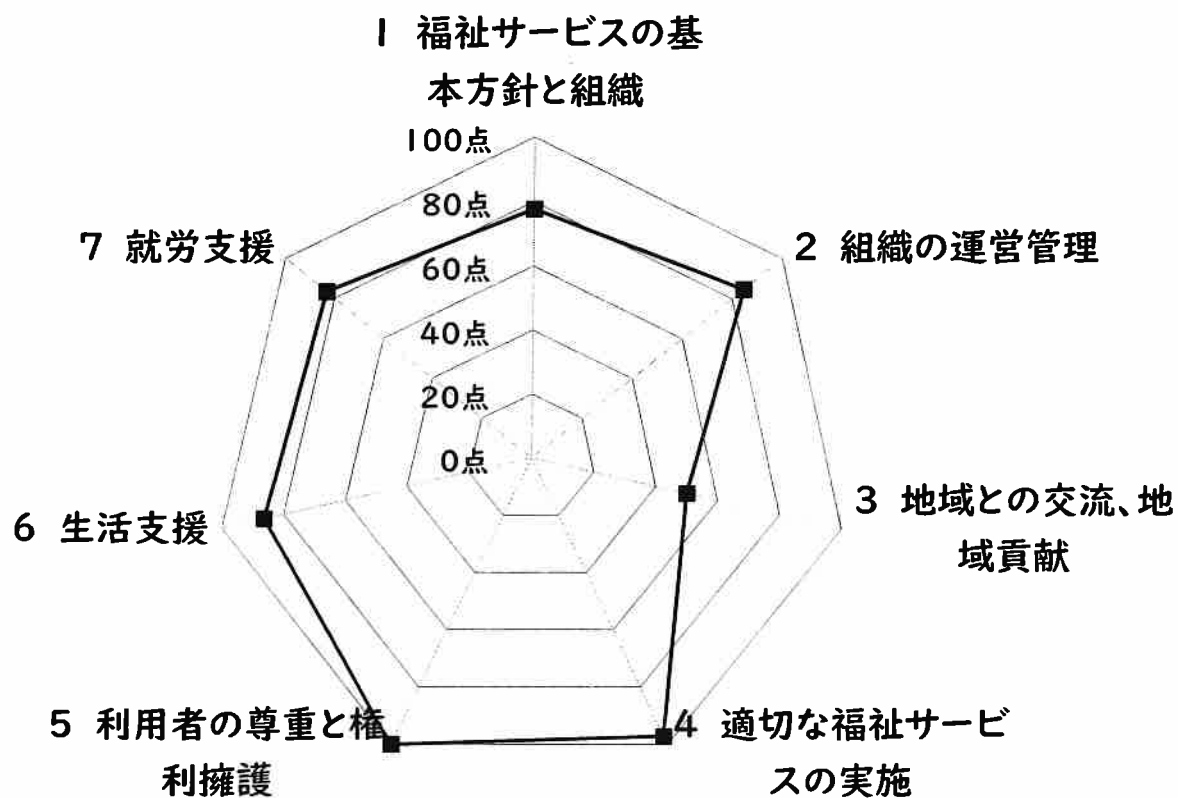
各作業の実績は以下のとおりとなっています。

作業名		令和元年度	令和2年度	予算（目標）
ア 受託作業	ミニパック	219,081	148,669	200,000
	菊水酒造	321,256	224,667	250,000
	松田医薬品	268,976	182,983	230,000
	碁石茶組合	314,510	321,335	250,000
	未広	26,264	174,958	20,000
	ヤマセン	0	124,850	0
	農工センター 清掃	240,000	240,000	240,000
	その他	311,469	348,406	110,000
受託作業合計		1,701,556	1,765,868	1,300,000
イ 印刷受注窓口		758,303	518,665	700,000
その他		76,450	22,500	0
合計		2,536,309	2,307,033	2,000,000
平均工賃		¥13,399	¥13,144	¥10,500

- ア 受託作業は、酒造会社の包装資材づくりやラベル張り、製薬会社からの入浴材の包装作業が停止や中止となりましたが、ぜんまいの仕分けや贈答品の箱詰等単発作業を取り入れました。また、県の仲介により工事用資材の加工作業を取り入れ、3か月間で¥124,850の売上となり、対前年度比3.8%のアップとなりました。
- イ 印刷受注窓口は、名刺の受注量が大きく減少したため、対前年度比-34%となっています。
- ウ ウィール社、カトレアとの販売協力につきましては、各事業所がイベント等に参加して販売する予定にしておりましたが、イベントの開催がなかったため、実現していません。
- エ 利用者様の工賃は、今まで同じ時給で支払っておりましたが、4月より作業内容や作業能力を加味して、対象の方の時給アップを行いました。また、期末手当として、総額284,000円を利用者様11名に支給しました。



## 評価細目の自己評価結果 (ファースト)



## 障害者福祉ホーム コーポラスこくふ

### 1 事業の総括

利用者様が地域の中で、自分らしく生活のできる環境を提供し、安心安全な自立生活を送ることができるよう支援を行いました。日常生活支援では、買い物、金銭、服薬等の管理を行い、災害時にはしっかりと対応できるように訓練の実施をしております。

経営面では、満床での運営を目標としていましたが、新規入居者を確保することができず、目標の達成はできませんでした。

### 2 事業報告

事業計画(1) 利用者様の住みやすい環境の整備や日常生活支援に努めます。

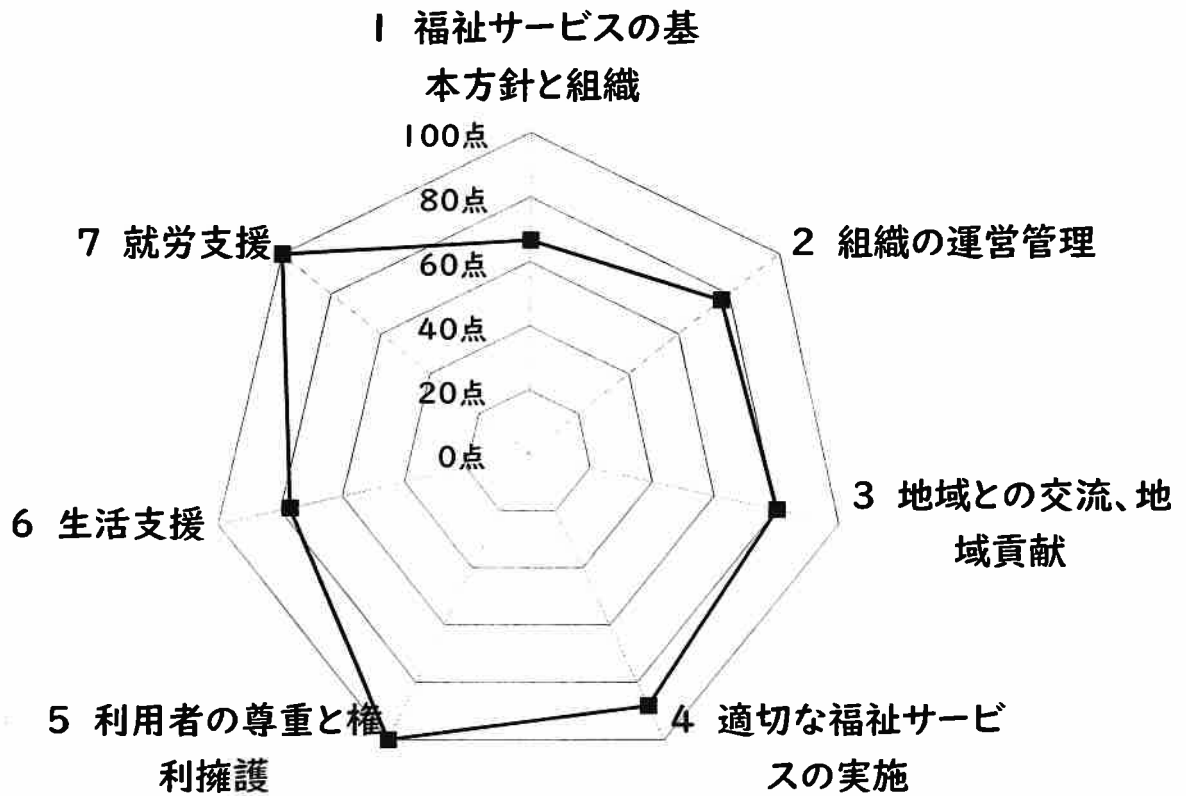
- ア 個別面談や利用者懇談会を通じて、ニーズや思いを把握し支援を行います。
- イ 障害者支援施設こくふやウィール社と連携し、定期的な避難訓練の実施や非常食の点検等、防災対策の強化を図ります。
- ウ 買い物支援や金銭管理の支援、薬の服用チェックや書類管理等を行い、円滑に日常生活を送ることができるよう支援します。
- エ イベントの開催や情報の提供、趣味活動の支援を行い、余暇活動の充実を行います。
- オ 設備の修繕や入替を計画的に実施し、住みやすい環境の整備を行います。

- ア 定期的に開催する利用者懇談会や、個別面談を実施し、相談事や希望、利用者間トラブル等の対応を行いました。
- イ ウィール社職員の協力を得、年間7回（地震3回、火災、水害各2回）の訓練を行い、災害時の対応力強化を図りました。
- ウ 毎週1度、南国市内の量販店へ送迎し、買い物支援を行いました。また、希望のある方にはプレミアム商品券の手続きやお小遣い帳のチェック、お薬カレンダーのセット、服薬確認、行政から来た書類の管理等を行い、日常生活を円滑に送ることが出来るようにサポートしました。
- エ 地域でのイベント開催がほとんどなかったため、ウィール社との共催で7月にバーベキューを開催しました。
- オ 浄化槽モーターや消火用ポンプの入替を実施し、1階の全居室にウォシュレットの設置を行いました。また希望者にはエアコンや換気扇の清掃を業者に仲介しました。

事業計画(2) 安定し継続的な運営ができるよう利用者様の確保に努めます。

- ア 常に満床を維持し、稼働率90%以上を確保します。退所者が出てもすぐに補充できるように待機者の確保に努めます。
- イ 利用者様の健康管理に気をつけ、疾病等の早期発見早期治療に努めます。
- ア 入居、退去者ともにおらず、9名の稼働率90%でした。見学者は、3名いらっしゃいましたが、契約には至りませんでした。3月末の見学者が4月より入居され、現在は満床になっています。
- イ 検温や血圧、体重測定を定期的実施し健康管理に努めるとともに、通院時には病院へ手紙を準備し、帰寮後は聞き取りを行い、早期対応に努めました。

# 評価細目の自己評価結果 (コーポラスこくふ)



## 相談支援センターアルペジオ

### 1 事業の総括

2020年度4月1日からは相談支援専門員1名を増員し、相談支援のスキルを高めることと、こくふ本体との協働体制の構築に努めることとしました。しかしながら、これまで務めてきた相談支援専門員の退職で引き続き専任1名体制となり、目の前の業務を滞りなく行うこと、利用者やご家族及び関連機関にご迷惑をかけないよう務めました。

また、3月1日からは相談支援員1名増員で2名体制となり、2020年度取り組み予定の数々を2021年度に実現していくことができるものと考えます。

### 2 事業報告

事業計画(1) 相談支援専門員として業務上必要とされる知識やスキルを高めていきます。

ア 利用者様やそのご家族とのラポール形成に努め、利用者様のエンパワメントを大切に  
した支援を行います。

イ ソーシャルワークや面接技術の向上に努めつつ、人間力(ヒューマンスキル)を高めて  
いきます。

ア 丁寧な交代のご挨拶に始まり、引継ぎの不安を与えぬようにと心配りをしてきたことで  
特に問題になることはありませんでした。

イ 対人援助者(介護職)としての経験もあり、報告や相談から先方への言葉遣いや促しや判  
断が正しくできていることが確認できました。

ヒューマンスキルを高める勉強会としての取り組みはできませんでした。

事業計画(2) 関連機関やサービス事業所等との連絡調整に努めます。

ア 社会資源の活用、連携、協働を行います。

イ 相談支援専門員が活用するだけでなく、障害者自身が活用できるように調整しま  
す。

ウ フォーマル・インフォーマルサービスの把握や、社会資源の発掘、人脈づくりを心掛  
けます。

ア 相談員としての関連機関との調整や確認等は初めての業務でしたが、円滑に進めること  
に心掛けながら取り組めていました。

イ 介護保険サービス移行されるご本人やご家族の不安要素を確認しながら、ご本人が考え  
られるよう関わりました。

ウ インフォーマルサービス事業所との関わりはなく、また社会資源の発掘に至るような時  
間も場面もありませんでしたが、関連機関との連絡調整に問題は発生しませんでした。

事業計画(3) これまでの体制や課題を改善するため、令和2年度から新体制で臨みます。

ア 別事業所としての線引きを緩和し、こくふ本体との連携やつながりを強化していきま  
す。

イ 相談支援専門員を0.5人増の配置をし、きめ細やかな相談支援を行います。

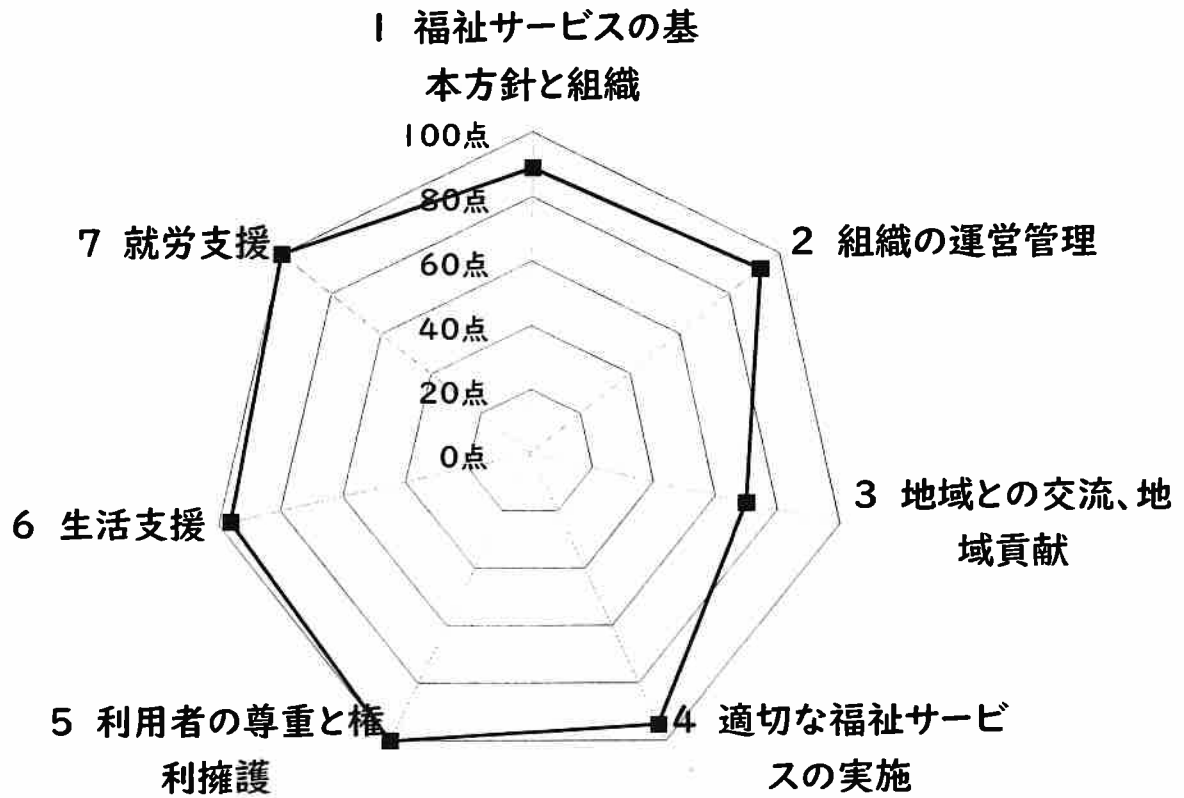
ウ 遠方支援を行う場合等の徴収可能な必要経費を徴収していきます。

ア 別事業所の枠は取れ、情報共有や日中支援への関わりも多少はできるようになりました。

イ 毎月のモニタリングや関わるべき利用者様との関係上においては、丁寧な支援ができた  
ました。

ウ 利用対象者がいませんでした。

# 評価細目の自己評価結果 (アルペジオ)



【MEMO】



